

平成二十九年度

適性検査 一一一

(注意事項)

- 一 放送で指示があるまでは、開かないこと。
その他、すべて放送の指示にしたがいなさい。
- 二 解答用紙は、この用紙の裏側に印刷されています。とりはずして使用し、
答えは、すべて解答用紙に書きなさい。解答用紙は、半分に折つて使用しても
かまいません。
- 三 検査問題は、1ページから11ページまで印刷されています。
検査が始まつて、文字などの印刷がはつきりしないところや、ページが
足りないところがあれば、静かに手をあげなさい。
- 四 「やめ」の合図があつたら、筆記用具を置き、机の中央に解答用紙を裏返して
置きなさい。

適性検査2－2 放送用CD台本

これから、適性検査2－2を始めます。外側の用紙が解答用紙です。内側に問題用紙があります。内側の問題用紙は、指示があるまで開いてはいけません。
それでは、外側の解答用紙を開き、受検番号と氏名を書きなさい。

(20秒後) 書き終わったら元通り問題用紙を挟んで閉じなさい。

(5秒後) 最初は、放送を聞いて問題に答える検査です。それでは、解答用紙を裏返して「メモらん」と書いてある面を上にしなさい。(3秒後) 「メモらん」にメモを取ってもかまいません。

(5秒後) これから、椋鳩十さんが書いた「樹齢七千年の杉」という作品の一部を朗読します。この話は、筆者が屋久島を訪れ、ガイドの岩川さんの案内により、樹齢七千年の大木を見に行くところから始まります。筆者が人里からそう遠くないところに生息しているその大木と対面したときの気持ちに注意しながら聞き、問題用紙の問い合わせに答えなさい。なお、朗読は1回だけです。それでは、朗読を始めます。

(3秒後)

朝はやくたって、樹齢七千年の杉までたどりついた。

七千といつたら、日本の歴史でいうと、神代のころにあたるであろうか。そんな時代から、生きつづけていた木なのである。

なんとまあ、すごい命だ。

七千の命が、私の目の前に、どしんと立っているのだ。

胴まわりの大きいこと。

大人が、十人で、両手をひろげてかかえても、かかえきれないであろう。

胴まわりは、十畳の間より大きいかもしれない。

想像を絶する大木である。

その大木が、峰吹く風に、ごうと、音たてている。

七千の老木が、大自然の神と、会話でもかわしているような音に聞こえるのであった。

木といつても、七千という命をもつ杉は、むしろ、大自然の奥深さを象徴する不思議なる存在といった感じだ。

七千の命が、今も、脈々として、息づいているのだ。

なんとも、とびぬけて、不思議な木だ。

人間にたとえたら、仙人の類であろうか。

いやいや、仙人とも、根本的にちがう存在である。

仙人は、俗世間から、遠くはなれた存在である。俗世界から超然とした存在である。

ところが、この七千の命の杉は、俗世間の中に、ひとり込んで生きているのであった。俗世間から、超然として生きようなどと、もうとう考えていないようである。

七千の老木だから、その杉の葉も、枯れがれとしているだろうと思ったら、大間違いだ。

さわったら、指の先も、青く染まるほど、その葉は、新鮮に光っているのだ。若々しいのだ。

さらに驚いたことには、七千の老木の枝という枝には、杉の実が、びっしりと、ついているのであった。子孫を残すための実を、びっしりと、ついているのであった。

七千の老木といえども、ほうほうと、命の火をもやして、今を生きているのだ。現世を、力いっぱい生きているのだ。

「七千の命が、音たてて燃えているわ。すごい」

と、私は、思わずつぶやいた。

すると岩川さんは、

「なにしろ、杉というやつは、すごい木でありますぞ。千年の杉でも、二千年の杉でも、倒れる瞬間まで、ちゃんと、杉の実をつけるんであります……」といっていた。

すごいというよりも、素晴らしいと思った。

死の瞬間まで、命の火を、ほうほうと燃やす。美しい生き方だ。

こういう生き方なら、あの世に旅立つにも悔いがない。美しい旅立ちだ。

(椋鳩十『命ということ心ということ』「樹齢七千年の杉」より)

以上で放送を終わります。それでは、問題用紙を開き、全ての問題に答えなさい。

平成二十九年度

適性検査 二一二

問題用紙

— 放送で聞いた内容から、次の(1)、(2)の問い合わせに答えなさい。

(1) 筆者が大木たいぼくと対面したときに感じた二種類の音を、次のようにまとめたとき、①、②にあてはまる言葉を書きなさい。

○みねさんちよう（山頂）をふく風に、大木がたてている「ざこう」という音が（ ① ）音に聞こえた。

○実際に聞こえているわけではないが、大木がほうほうと（ ② ）音をたてているように思えた。

(2) 筆者は、「仙人せんじん（山中に住み、不老不死であるといわれている想像上の人）」と比べて、大木をどのような存在そんざいととらえていたか、「同じ点」と「ちがう点」にふれながら書きなさい。

— 次の文章は、筆者の貫戸朋子さんが、天災や戦争などの状況下じょうきょうか、医療いりょうえん助活動等を行つ「国境なき医師団」の医師として、赤道近くのスリランカという国のマドゥーにある、戦火をさけて住居をはなれた人たちが集団で生活している場所（キャンプ）で活動したときの体験談の一部です。これを読み、との(1)、(2)の問い合わせに答えなさい。

(2)

文章中に、A考えは変わりました

とあるが、何が、どのように変わったのか、その理由についてもふれながら書きなさい。

(1)

文章中に、心の中からしみじみと喜びが込み上げてきました

とあるが、それはなぜか、その理由を書きなさい。

- ※ 1 夜間外出禁止令 …… 人々を守るために、出歩くと危険な夜間の一定の時間帯をあらかじめ通知する、その指令。
- ※ 2 紛争地 …… 争いが起きている場所。
- ※ 3 敬意 …… りっぱだと思う気持ち。
- ※ 4 過酷 …… 厳しそうな様子。
- ※ 5 屈託なさ …… 何かを気にして心配するようなことが全然ない様子。

(貫戸朋子『マドゥーの地で』より)

三 放送による問題一の椋鳩十さんの文章から聞き取ったことと、問題二の貫戸朋子さんの文章から読み取ったことをふまえて、次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 二人の筆者が伝えようとしていることの中で、共通していることを次のようにまとめたとき、①に合う内容を書きなさい。

樹木じゅもくも人も生命あるものは、()

①

(2) (1)で答えた内容について、貫戸さんは、「敬意をはらわずにいられない。」と感じているが、椋さんはどのように感じていたか、書きなさい。

(3) (1)、(2)で答えたことに関連して、あなたはこれまでにどのような経験(見たり聞いたりしたことをふくむ)をし、その経験を通してどのようなことを感じましたか。また、それを今後、社会のためにどのように生かしていくますか。次の(注意事項)じこうにしたがって、三百字以上、三百四十字以内で書きなさい。

(注意事項)

- ア ます目の中には、題名、氏名は書かずに本文から書き始めるこ。
- イ 文章全体を二段落だんらくの構成とし、一段落目には、あなたの経験について、二段落目には、その経験から感じたことについて、三段落目には、それを今後、社会のためにどのように生かしていくかについて具体的に書く」と。
- ウ 原稿用紙の適切な使い方にしたがつて書くこと。
- エ 文字やかなづかいなどを正しくていねいに書き、漢字を適切に使うこと。

【メモらん】

平成二十九年度 適性検査 一二一 解答用紙

答えは、すべてこの解答用紙に書き、解答用紙だけ提出しなさい。

受 檢 番 号	
---------	--

氏 名	
-----	--

※	
---	--

※らんには何も書かないで。

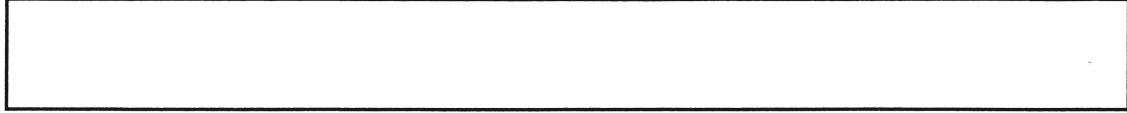
一 (1)

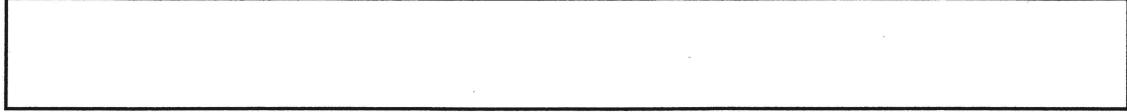
①	
②	

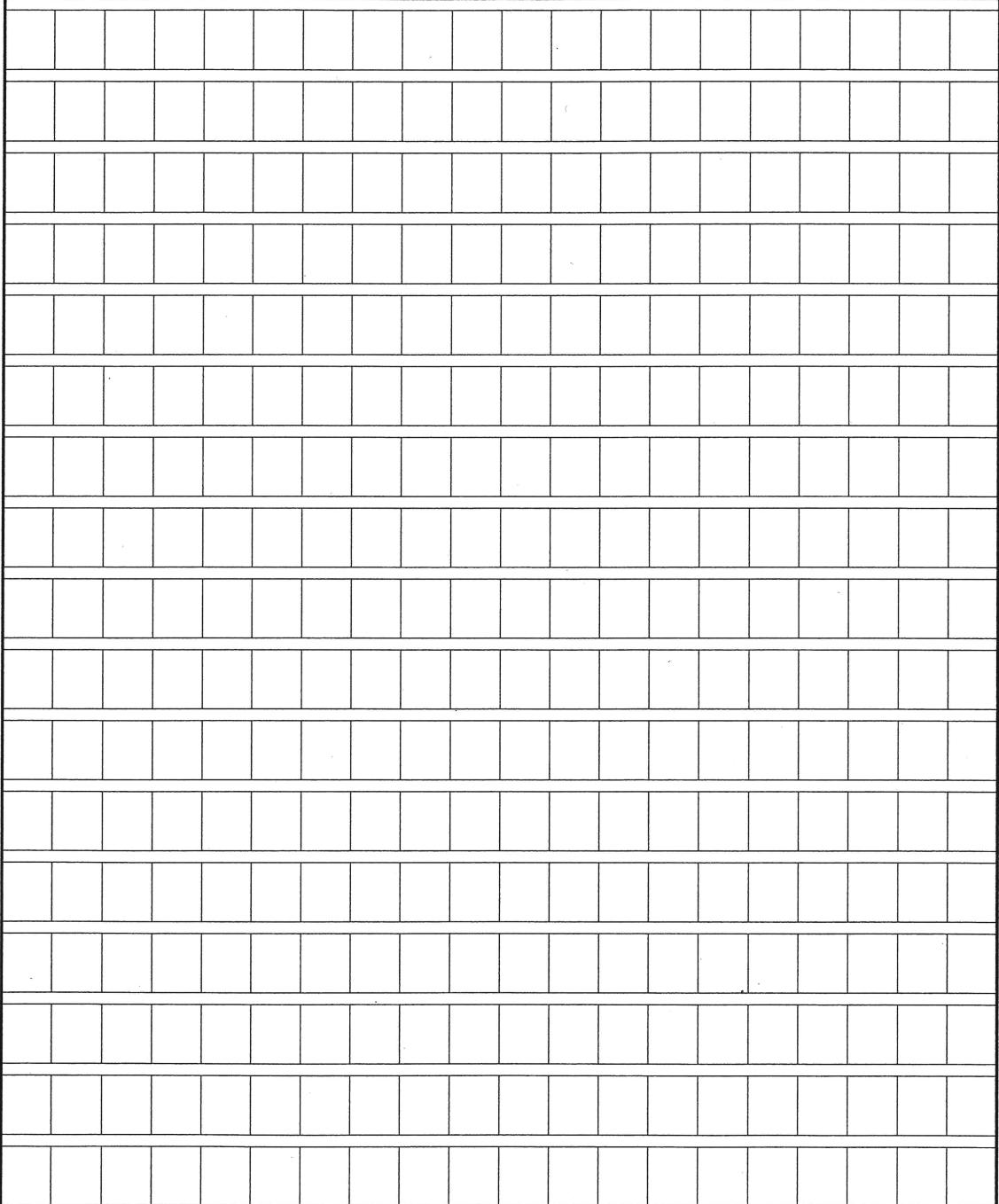
(2)

二 (1)

(2)

三 (1) 

(2) 

(3) 
100
200
300
340

問題番号	解答例										配点及び注意事項
	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	
一											
	大自然の神と会話をつかわしているような命の火を燃やす										
	どちらも長命という共通点はあるものの、せん人はぞく世間からはなれたそんな在だが、大木はぞく世間の中に入りこんで人と共そんしてきたそん在。										
	むすめをなくしたつらい状況の中でも、今できるひとを精いっぱいに行おうと、医師への信頼を失わず、残された子どもの命を今度こそ守ろうとしている父親のすがたを目にしたから。										
二											
	ぎりぎりの状況下で必死に生き残りうとする人々とともに生きることにより、「ボランティア」に対する考えが、人に与えるものではなく、多くのことを教えてもらえるものであり、生きる意味を再確認にんするこいや、人間のすばらしさを味わうことなどができるものであるといふに識に変わった。										
	今は精いっぱい生きている。										
	すばらしく、また、美しい生き方の木であると感じていた。										
三											
	ぼくの兄は中学校でサッカーチームに所属していました。けんめい練習に取り組んでいました。ところが、なくなってしまった。そして、大会当日。チームのために、道具の準備や声出しを精いっぱいいやつていた兄。はづかしくなります。そんな兄はぼくにとってまぶしいそん在です。ぼくのことは理学りょう法士になることです。一人でも多くのかん者さんがつらいりハビリになります。これが先、どんなこんな人があつても、兄のように今まできたことに全力で取り組み、じょう來の夢を実現したいと思います。										
	10 10 15 15 15 10 10 15 10 5 5										
	10 10 15 15 15 10 10 15 10 5 5										
	30										
	30										
	100										
	50										
	計										